

本書の構成と視点

山田洋一

本書は、科研費「公儀触伝達にみる徳川領国と国持外様領国の両領国体制の存在と構造―幕藩体制構造研究」の成果をまとめたものである。第一部「一 太刀宮文書（久美浜代官所郡中代等文書）・佐治家資料調査」、第二部「二 御用留横断研究」の二部構成となっている。

第一部は、科研費研究の基礎史料とするために行った太刀宮文書（久美浜代官所郡中代等文書）と佐治家資料（『京都府熊野郡誌』編さん関係資料等）の調査報告である（同文書、同資料に（ ）を付して内容を補記しているが、以下、省略する場合もある）。詳しくは、「太刀宮文書・佐治家資料調査について」を参照していただきたいが、今後の同文書、同資料の利用における参考とするという視点から、調査の経緯、概要、関係の論考、同文書と同資料の解題・目録、参考文献、研究成果の地域還元企画の資料から構成している。このような視点は代官所領における公儀触の伝達の分析にも有用なものである。

第二部は、これまでの公儀触の調査を通していただいた教示の論考と拙稿からなっている。教示の論考の一部は再掲載させていただいたものであるが、そのほかは新たに執筆していただいたものである。こちらも詳しくは、「御用留横断研究について」を参照していただきたいが、各地、各種の御用留を横断する構成となっている。御用留の研究は、各地域で行われているにもかかわらず、全国の御用留を対象とする総合的な研究は進んでいないように思われる。第二部はその第一歩になればという視点によるものである。

本科研費研究は、各地域の公儀触伝達の比較研究を基本としている。それには各地域で進められている研究の蓄積に負うところが多いが、比較することによって、各地域の、また全体的に、新たな研究の視点が生じることもあるように思われる。このような視点でも本書を構成したつもりである。

本書が、久美浜、丹後のみならず広く各地域の研究に役立てば幸いである。